

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	東京市町村総合事務組合		代表者名	加藤 育男	
担当者部署	教務課		連絡先電話番号	042-384-6444	
担当者役職	主事	担当者氏名	神長 智恵	連絡先E-mail	
住所	183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	よい
上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に）	<ul style="list-style-type: none">当方の勉強不足により、提案した研修内容は漠然としたものでしたが、それを的確に捉えて具現化していただけて、講師の登壇スキルの高さを感じました。講義編は自治体におけるデータ利活用の有効性について分かりやすく講義いただき、実践編はすぐに使えるエクセルの小技巧を丁寧に教えていただけて良かったです。研修内では研修生からの活発な質問に1つ1つ丁寧にご対応いただき、また回答しきれなかった質問については後日回答するというフォローアップまでご提案いただき、大変きめ細かな対応をしていただけて良かったです。
アドバイザーへの要望事項	<ul style="list-style-type: none">連絡をスムーズにとれるとさらによかったと思いました。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（応募依頼より）	支援内容（応募依頼より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和6年2月7日	講演	有	令和5年11月30日	1045
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年2月22日	講演	13時15分	17時00分	10
				活動時間（分）	215

4. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

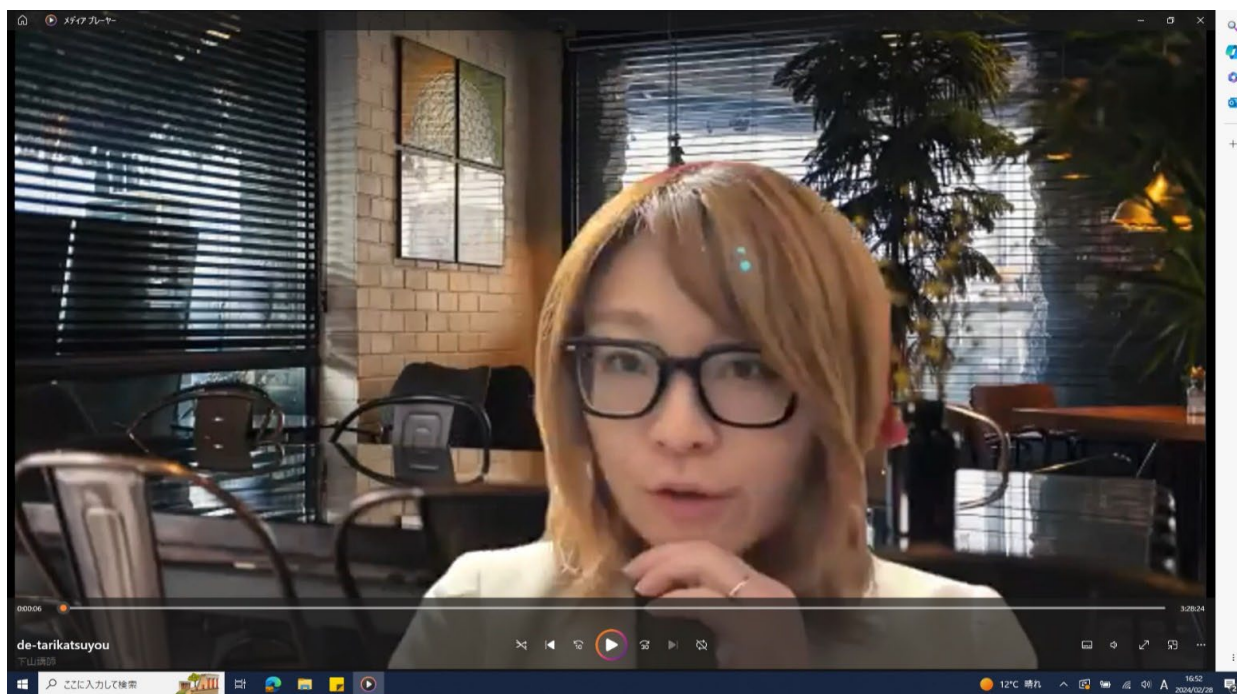
5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	自治体職員	219人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	EBPMの推進と言われているが、自治体独自では予算の関係もありなかなか新規研修を立ち上げられない中で、データ利活用については市町村からも研修実施のニーズがあったところである。弊所では共同研修機関としてそのニーズを受け止め、自治体によるEBPM推進のためにも本研修の企画をしたが、新規実施であるため研修内容が具体的に定まっていなかったという課題があった。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	研修内容を具体化したうえで研修を実施し、自治体職員が政策立案や業務遂行に役立つデータ収集・分析力（データ利活用能力）を身に付けること	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	<ul style="list-style-type: none">こちらの企画意図から研修内容を構築していただき、弊所にて受講者を募集する際に発出する研修概要も作成いただいた。データ利活用の有効性に気づかせる講義をしていただき、またすぐに使えるエクセルでのデータ集計・データ分析についても伝授していただき、多くの自治体職員にとってデータ利活用の足がかりとなる機会を与えていただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	<ul style="list-style-type: none">弊所の研修企画意図を汲んだ研修内容の構築と研修実施。講義及び実践を通じて、上記「支援により目指す成果」を達成できた。	

具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他
	次年度新設する研修体系「デジタル人材育成研修」における、本研修の内容の位置づけが明瞭になり、かつ研修内容を構築できた
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	なし
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 研修後アンケートの数値で5段階中5及び4と回答した者は、講義理解度79%、職務役立ち度80%、科目重要度83%、意識変化81%、講師の説明のわかりやすさ78%と、概ね8割前後を記録する高評価だった。今回受講人数が多いため研修生のレベルにも差があり、研修後半の実践編についてこれなかった研修生も多数いたことが窺え、理解度が8割を若干下回る結果となったのではないかと考える。
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	市町村職員のデジタルリテラシーの向上と情報の利活用への対応、市町村のデジタル化に寄与する情報技術の付与を目的とした「デジタル人材育成研修」を新たに体系として設置し、この体系内において、ニーズの高い本研修を引き続き企画・実施し、自治体によるEBPMの推進を後押しする。

なお、＜その他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



客観的なデータが経験や勘を越える例：
PredPol（米国の犯罪発生予測システム）

- カリフォルニア大学が開発した犯罪予測システム
- 過去の犯罪情報のデータベースをもとに、将来「いつ、どこで」犯罪が起きるのか、機械学習で予測
- ロサンゼルス市警の犯罪分析官とPredPolの予測を比較したところ、PredPolの方が2倍以上正確に予測できた

従来の経験や勘頼りの方法ではなく、
データに基づく客観的な根拠から判断する方法へシフト

2024-02-21 Sayoko Shimoyama, LinkData 32